

第5回里山フェスティバル「里山シンポジウム」

開会挨拶

里山シンポジウム実行委員会 代表 金親博榮



風薫る5月、水田は緑の絨毯を思わせる季節となりました。本日はたくさんの方々がお集まりいただきありがとうございました。

このシンポジウムは、第54回全国植樹祭の翌年、県民の発意により、第1回を木更津市にて開催しました。その後我孫子市、八千代市、東金市にて開き、いずれも県、地元自治体、大学等のご支援をいただきながら市民が主体となって企画運営を行ってまいりました。活動を始めて6年になりますが、この間「里山」という言葉は、だいぶ耳慣れた言葉になってきました。里山の大切さがより深く認識される時代となりました。

毎年の共通テーマは「里山に託す私たちの未来」ですが、今年は千葉市が共同主催者としてご支援くださり、サブテーマを「里山と生命のにぎわい」として、里山を生物多様性を育む大切な場所として注目することとしました。22の分科会が県内各地で開かれ、里山を取り巻く人々の自立した循環的な営み（なりわい）が、里山を守り育てるのだという大きな社会的なうねりに繋げる願いを持って進めております。各地で具体的な運動の成果ともいえる事例を挙げることもできるようになってきました。本日は長時間に亘りますが、最後までご参加下さるようお願いいたします。

堂本知事、鶴岡市長、新沼学長を始め、ご協力下さった多数の団体の方々のお力添えのお陰で本日の会が開けたことに感謝し、里山シンポジウム実行委員会代表としての挨拶といたします。